

登戸学寮ニュース

第13号 2022年10月20日発行

— 世界はどこへ行くか —

理事長 小島 拓人

2年余りにわたってウイルスと人類の戦いである新型コロナウイルス災禍に世界は揺れてきました。ところがこの問題の終息の見通しが未だ不透明な今日、それに加えて、冷戦下に逆戻りするロシアのウクライナ侵攻という国と国の戦いが世界を巻き込んでいます。社会主義と資本主義の対立という冷戦の終焉はついこの前の出来事として私どもの記憶に新しいものでありましたが、そしてこの21世紀には再び戦争を繰り返してはならないという思いと大方の期待がそこにありましたが、昨今は毎日が戦争のニュースに満ちた状況となっています。私どもはこの正義に悖る戦争は長続きしないという希望を抱きたいのですが、ことはそう簡単ではない様に思われます。

今日を取り巻く世界の背景には根底にいわゆる権威主義国家（実態はともかく公称）と民主主義国家のあからさまな対立があり、そこには冷戦の終焉から改めて「世界はどこへ行くか」という極めて深刻な問題が突きつけられている観がします。人類は貧困や様々な困難からの自由を求める歴史を繰り返してきましたが、今日の世界の争いではつまるどころ、その「自由」を巡って各々が主張する「自由」の本当の意味が改めて問われているというべきでありましょう。

その「自由」について新約聖書のイエスのことばを想起します。「あなた方は真理を知り、真理はあなた方を自由にしよう」（ヨハネ福音書8:32、前田護郎訳）。そして内村鑑三には以下の発言があります。「パウロに学びて束縛を絶ち、ヨハネに教えられて自由を楽しむ。われらは信仰の人であると同時にまた愛の人たるべきである。」（『聖書乃研究』132号「信仰と愛」1911年7月）。ここに示された永遠の相の下、根源的、今日的意味を持った「真理にある自由」という道しるべを確認して堅持して行くことが、「世界はどこへ行くか」が問われる今日に求められていることではないかと思えます。

登戸学寮を取り巻く世界は、新型コロナウイルスの感染の爆発の波が続き、そこに、昨今の世界を巻き込んだ冷戦下に逆戻りする国と国の戦いが勃発して、短期的にはウィズ「コロナ・新冷戦」という先行きがますます不透明な中にあります。しかしながらそうした波乱の時代にあればこそ、将来を担う若者が時代を超えた聖書の真理の学びを通して共同生活を送るという登戸学寮の存在意義を改めて再確認したいと思う次第であります。

特集 コロナ禍の学生生活の変化

理事長挨拶 1	金井守氏を偲ぶ／お知らせ 8
聖書の言葉 2	新理事紹介／私の好きな○○ 9
寮の近況報告 3	卒寮生インタビュー 10
コロナ禍の学生生活の変化 4	寮友会／俳句コラム 11
寮生の活動について（夏） 5	ご支援へのお礼とご報告 12
理事会・評議員会報告 6	寮生の出身国・都道府県 12

聖書の言葉 迷信でも狂信でもない、正しい信

カルトの非道を背景にした衝撃的事件が起き、今、宗教における信の正しさが問われている。カントは信における理性の逸脱を「狂信」、感情の逸脱を「迷信」と呼んだ。正しい信は理性と共存でき、感情や欲求等に対し善き態勢（例、恐怖に勝つ勇氣）を涵養する。「不条理（ $3+5=10$ ）故に信じる」（一教父）等の偽りや、恐怖に陥れ誘う卑劣さは許容できない。信の正しさが保証されるのは、信仰対象の教えに即す時、聖書的には啓示された神の意志に即す時である。神による人間認識、意志は歴史上御子の受肉と信の従順において最も明白に知らされ記録されている。

しかし、そこに循環が疑われよう。神の啓示に基づく信の秩序づけは人の願望の反映であって、願望に基づく信仰により信仰の正しさを主



真理の探究！読書会

張する無限ループの自閉が待っている、と。しかし、信仰の自家中毒の主張はブロックできる。聖書の報告が人間本性を開示する限り、また無矛盾である限り、信仰心即願望の投映から逃れうる。

イエスは人類が本性上道徳的存在であることを人間の真実として一步も譲らなかった。喜びがあるからである。山上の説教はモーセ律法を純化し道徳の極限を示したが、イエスは「まず神の国とその義を求めよ」と信仰に招き、自ら「神の子の信」により山上の教えを生き抜き死により律法を成就した(Mat.6:33,Gal.2:20)。この教えある故に人類に絶望しないその確かさが示され、人々は連綿と信の喜びのもと道徳的存在者を自らの本性と認め、信から愛の道を歩んだ。信の正しさは徴を求めず証を立てる。外に立つ福音故に蛇の自己食尽の無限回転を止めうる。

知性の確かさも循環を止める。パウロの「ローマ書」は明確な方法論「ロゴス（理論）とエルゴン（聖霊等の働き）により」展開されており、「聖霊は体験あるのみ」にならず、その明確な理がある(15:18)。「ローマ書」は言語層が五つに分節されうる無矛盾の議論が展開されており、神の前

（神の義を示す「信の律法」と「業の律法」の啓示）と人の前（人間中心の議論）そして双方を媒介する聖霊の働きをめぐり整合的な言語網が形成されている。「信の律法」下にある「不敬虔な者を義とする方を信じる者には、その信仰が義と認められる」が「業の律法」下にある者に神は「その業に応じて報い」「律法を介しての[神による]罪の認識がある」故に「義とされない」(3:27,4:4,2:6,3:20)。二種の神の義に矛盾はない。

彼は「知恵者にも責任がある」とし信仰義認(1:17,3:21-4:25)と予定(9:6-11:32)を聖霊への一切の言及なしに「神の知恵」として説得する(1:14,11:32)。転じて、彼は5-8章で「われらの弱さ」(8:26)に宿り呻きつつ神の意志を執成す聖霊の働きを自らの今・こことして報告する。「真理とは何か？」(ピラト)への一応答は真理の対応説であり、彼の5-8章の議論が実際今・ここで働いている聖霊を捉えた場合に真となる。その言明と世界の対応を一旦括弧に入れた真理論「整合説」によれば、言語網それ自身が無矛盾に構築されている限り真である。

「神の愛はわれらに賜った聖霊を介してわれらの心に注がれてしまっている(現在完了)」(5:5)は発話の時点で聖霊の注ぎなしには偽となるが、「神の愛は心に宿る聖霊を介して注がれる」によりその働きを一般的に理解できる。過去形表現「キリストにある者たちは諸々の情と欲とともに肉を磔た」(Gal.5:24)により、「風」の如く時空を自由に往来する聖霊がゴルゴタ上でわれらの過去の罪が処分されたという神の認識を心奥で伝達執成している。聖霊はあの出来事に眼差しを向けさせ、人は十字架を仰ぎ見、その都度情と欲と共に古き自己を磔ける。

イエスは譬える、「天国のことを学んだ者は新旧のものをその蔵から取り出す一家の主人に似ている」(Mat.13:51)。人生の最重要事の学習者は生全体を見渡し大事小事、新旧を判別し秩序づけ導く。イエスは天父と子の絆の信の満ち溢れにより言葉と働きの分裂なき幼子とその全人格において生き抜いた。魂の根底の信の喜びが良き働きを生み栄光を証しつつ賢者と聖者への道を歩むとき、誰も狂信や迷信の誹りを浴びせることはできない。

千葉 恵

寮の近況報告

第一回キャリアフォーラム

7月3日の日曜聖書講義終了後、理事の福嶋美佐子さんと評議員の早川嗣さん（2009年卒寮）をお迎えして、第一回キャリアフォーラムを開催した。多方面で活躍する卒寮生、関係者にこれまでの歩み、現在の職業、生活をお話いただき、近い将来の姿をイメージし、卒業後のキャリア（職業だけではなく人生そのもの）を考えるための示唆を得てもらうことがこの会の目的である。

今回はキャリアコンサルタントの国家資格を持つ福嶋さんが自己紹介も兼ね、留学を経てNPO 法人チャイルド・ファンド・ジャパンで働くことになるまでの経緯、キャリアの積み重ね、適切なタイミングで出会った人々とのつながりを紹介しながら、軽妙に司会進行。その後、早川嗣さんがクリスチャンホームに育った中での葛藤や両親の影響で映画に親しみ、現在の仕事の原点となったことを振り返りながら、学生時代から仕事としてテレビ報道の現場に携わるまでに経験した挫折の数々（職業として検討した牧師、教師、映画監督…）を経て、ポレポレタイムス社（映像制作、配給会社）の本橋成一氏に出会い、映像に関わる仕事にたどり着いた現在までのこと、そ

枳形山の日々

4月から始まった今年度も8月7日から9月19日まで夏季閉寮期間に。これまでコロナ陽性者は2名、濃厚接触の可能性ありの者は数名、しかし穏やかな半年間だった。寮生数名が中庭と女子寮屋上を耕し、種から育てた枝豆、きゅうり、ミニトマトは大豊作で、サツマイモは収穫を待つばかりとなっている。枳形山の季節は巡っていく。

早朝の散歩を欠かさず、毎日の端正な生活リズムが自立した人間性を感じさせてくれる新入寮生がいる。毎朝の礼拝は登戸学寮が存在する限り続いていく。今年度の週日の朝拝は東京藝大でパイオルガンを学ぶ寮生の牧さんの端麗でのびやかなリードオルガンの音色で始まる。食堂の指定席に日々欠かすことなく着席し、一日を始める人がいる。様々な環境で育ってきた寮生たちだ。幼児期から現在までに身につけたものはその後の人生の随所で小さな花を咲かせ、いくつもの実をつけているように寮生を見ていて思う。ごく普



第1回キャリアフォーラム プレイルームにて開催

の過程で気が付いたのが「自分という人間になったのには必ず理由があるはず」であり、そうして明らかになった「個」としての自分を愛することができればそれが自分の強さになるという含蓄に富んだお話しをしてくださった。

質疑応答では、就職活動を間近に控える3年生から、どのように職業選択を考えたらよいのかという切実かつ現実的な相談、福嶋さんからは就職活動の現状の紹介もあり、その後の懇談はサンドイッチを食べつつ（マスクとアクリル板あり）、少人数の輪でより核心的な話をお聴きすることができた。福嶋さんには個別のキャリアコンサルティングを希望することができるので、複数の寮生が予約をしていた様子である。次回以降、小学校教員、メーカー勤務会社員などの講演を予定している。

千葉美佐子



女子寮の屋上菜園

通の自然な生活の積み重ねが自立した人を作り上げている。それは規則正しい生活だとか、一つのことに継続して取り組むといった単純な事柄では

ある。今からでは遅いのか、まだ間に合うのか、幼児期ではないのかもはやご本人の努力次第だ。しかし今努力できるかできないかも幼児期の習慣の賜物なのか。週日（しかも開寮期間のみ）、決まった時間に起床して、朝拝に出て、朝食を食べて…ということがそんなに大変なことなのか、大変なのだろうな、恐らくこれからも。しかし難なく継続している人々もいる。そこに希望を抱きつつ、清々しい朝を迎え、登戸学寮の一日が始まる。

千葉美佐子

寮生に聞いた

コロナ禍の学生生活の変化

健康を作る良い習慣

佐々木さら

恵泉女学園大学人文学部3年

新型コロナウイルスが流行し、早三年になる。流行により私自身この約三年間で生活に変化があったと感じる。

一番は授業がオンラインになった事だ。この初めての授業方法のメリットは、対面でなくとも受講でき進歩だと感じた。デメリットは、意見を伝えづらい、通信不良により聞きとれない、友人ができてにくいことだ。また授業内容をよく理解し集中できるのは対面授業であると感じており、取り組みのモチベーションが違う。何より対面での授業の方が楽しい、コミュニケーションも増えていく。今年度の方針のまま対面が増えるのを祈るばかりである。

この疫病のせいで悪いことしか起こってないと世間では思われてもいようが、私は現状を受入れコロナ禍のなかどうにかして楽しむことにした。私は散歩が好きなので、散歩をたくさんすることにした。外出により感染リスクが上がるかもしれないが、アルバイトをしているため、外出せ

ざるを得ない状況である。散歩であれば、交通機関を使うよりもリスクは低くなる。高校時代バスケット部で足が鍛えられたため、どこへ行くにも出来る限り歩くようにし、自然や景色を感じることも多くなり、プラスアルファとして癒しにもなった。コロナを忘れ良い時間を過ごせるようになった。日々のストレスからの息抜きともなり、精神面でも健康面でも良い習慣になったと思う。これが私のコロナ禍での進歩した点である。

最近恐ろしいと感じたことがある。それは「慣れ」である。この環境に慣れてしまい、会話や外出の際にマスクを外す等悪影響に無感覚になってしまっていると感じた。少しでも早く終息するためにも外出を控える、アルコール消毒や手を洗う、マスクを着用するなどの「慣れ」になってほしいと考える。プラス思考によりこの環境は今だけかもしれないと考え、この状況でもモラルを守りつつ新型コロナウイルスを乗り越えていきたい。

「会えない」切なさの力

結城史音

和光大学現代人間学部3年

コロナ禍に入ってから失ったものはなんだろうか。少なくとも大学入学前に思い描いていたキャンパスライフがどこかに行ってしまったことは確かだ。私は2020年度入学の三年生なので、コロナによる大学生活への影響が最も濃かった代ではないかと思う。入学式が中止になり、いざ春学期が始まっても授業は全てオンラインで、大学に行くことは全くない。そんな状況が丸二年続いた。

三年生になってようやく大学に通い始めるようになったが、学食やサークル、ゼミ活動などが新鮮に感じる。私が在籍している和光大学は自由な校風が売りで、学内活動のハードルが低い。その醍醐味を味わえる様になってきた事も、新鮮さの一つだ。

今年度初めから「きんじょの本棚」という活動を、学内通路の「和光銀座」でやろうとしたり、代官山蔦屋書店ブックコンシェルジェの間室道子さんの講演会を企画しようとしたり、色々やってみようになり、教授や図書館職員の方、学

生支援室の方などと関わりを持つようになったが、そのような「自由な活動」に対して追い風を吹かせてくれる方ばかりで頭が上がらない。

反面、向かい風としてやはりコロナが存在している。講演会にしろ、読書会にしろ「人が集まる」という事に制限がかかって、窮屈さは否めない。遊びにも学びにも制限がかかったまま「コロナ禍の学生生活」ははずると続いている。おそらく、完全な終息は未だしばらく見込めないだろう。どこまで完璧な対策を取るべきなのか、バランス感覚が問われているように感じる。自分の思考と判断が何に囚われているのか、常に客観視していたい。

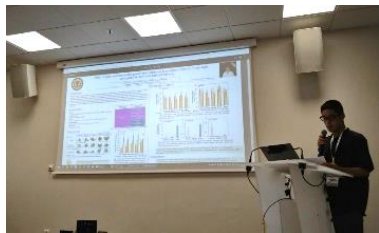
コロナは、今まで持っていた関係を温め直そうとする気持ちの原動力として「会えない」という切なさを与えてくれ、際限なく広がりがちな大学生活での人間関係が本当に価値のある物なのか再考させてくれる期間を与えてくれた。そう認知を変えれば、得る物が多かった、と言い切れる様になったコロナ禍の学生生活二年半だった。

寮生の活動について(夏)

寮生活動支援を受け、8月14～20日にかけてフランスのアンジェで開催された国際園芸学会においてポスター発表を行った松井共生さん(詳細は次号「方舟」にて報告予定)と大学の山岳部にて北アルプスを縦走した川嶋すず菜さんに、この夏の経験を報告いただきました。

国際園芸学会に参加して 松井共生 玉川大学大学院農学研究科修士課程2年

私は、植物工場(土を使わず室内で育てる手法)で高品質なホウレンソウを効率的に栽培する方法の確立を目指し研究している。ホウレンソウに含まれているカロテノイドという成分の含有量を増加させることで、高品質なホウレンソウ栽培が出来るのではないかと推測し、栽培後期の1週間に青色光を照射する実験を行っていた。生育が向上しつつ、カロテノイドの含有量も増加するという一つ結論が得られたため、国際園芸学会での発表を決意した。



発表ではこの結論に加え、カロテノイド合成に関する遺伝子の発現量を交えて説明を行った。研究結果を1枚のポスターにまとめた資料を作成し、それについて3分間の発表、2分間の質疑応答という流れであった。初めての英語での発表であっ

たが、堂々で行うことが出来た。しかし、発表に対する反応は自分が想定したものと違い、発表の主軸であったカロテノイドについてはあまり関心を得られなかった。植物工場を表す英語はPlant Factory with Artificial Lighting (PFAL)やVertical Farming(垂直農法)など様々であるが、それぞれのニュアンスが異なることをある先生と話した時に知った。PFALは環境を精密にコントロールする時に使う表現であるのに対し、Vertical Farmingは食糧問題の解決に焦点を当てたものである。国際的に関心が高いのは垂直農法であり、日本では精密な環境制御や成分に注目した研究が特に行われていることを知った。

今回、様々な発表を聞くことが出来、国や地域ごとの興味の違いを知ることができた。一つの分野にこだわらず、海外のニュースを見るなど、国際的な関心を頭に入れて物事に取り組んでいきたいと思った。

山と岩に向かう日々 川嶋すず菜 明治大学農学部1年

私は山岳部に所属し登山や岩登りをしています。この夏は最も長い一週間の合宿があり、30kgの荷物を背負って登りました。この荷はとても重く、すぐに体力を消耗しましたが、先輩の背中を追って、少しずつ重い足を前に出して進みました。北アルプスを縦走し、色々な山の山頂に立ちました。正直、合宿中は苦しいことの方が多く、心が折れそうになりましたが、乗り越えて以前より弱い気持ちに負けないようになってきました。今まで辛いことから逃げることも多かったのですが、今回の合宿の苦しさに負けなかった自分に少し自信を持つことができました。この縦走で一番心に残ったのは槍ヶ岳です。高校生の頃に友人と登りたいと話した憧れの強い山でした。当日霧が出て視界が開けませんでした。槍ヶ岳山頂に到達した時に霧が晴れました。合宿後半の疲労のなかその雄大な景色を見たときはご褒美をもら

えたように感じ、頑張った良かったと心から思えました。同時に高校の山岳部仲間思いを馳せました。

夏休み後半は長野県の小川山で岩登りでした。ロープを使用し、高低差約250mの岩を登りました。自然の岩なので、強い衝撃がかかると崩壊する危険もあり、緊張感がありました。緊張感のある分、岩の一番上に立ち、周りの景色を一望できた時の達成感や喜びは大きいものでありました。山登りは多くの困難を伴いますが、それを乗り越えることで自分の成長を感じ、達成感があり、とても魅力的な活動であると思います。これからも登山を通して、新しい自分に出会えることができれば嬉しいです。



(編者註：2019年茨城国体ボルダリング競技8位入賞)

理事会・評議員会 報告

1. 理事会、評議員会の開催

公益財団法人登戸学寮の定例理事会は2022年5月21日(土)に、定時評議員会は6月11日(土)に、対面及びZoom会議形式で開催されました。以下にその議事内容について報告します。

2. 2021年度決算

2021年度決算資料(収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表等)について、以下の通り説明があり、監事による監査報告を経て、承認可決されました。

1) 収支計算書について、事業活動収入は、予算対比でみて、寮生数の増加、一般寄付の増加等により、3,331万円となり、他方、事業活動支出は、コロナ感染症対策費、修繕費の増加等により、2,571万円となった結果、事業活動収支差額は、760万円(予算対比+255万円)となりました。

他方、投資活動収支は、建物再建積立(370万円)、修繕等積立(100万円)、特定費用準備金積立(50万円)の支出等により、投資活動収支差額は、-571万円(予算対比-171万円)となった結果、当期収支差額は、189万円(予算対比+85万円)となりました。(別表1参照)

2) 正味財産増減計算書については、経常収益は、指定正味財産振替額(修繕等積立金の取崩し、特定費用準備金の取崩し及び指定寄付の合計)179万円を含めて3473万円となる一方、経常費用は、減価償却費(728万円)を含

【別表1】収支計算書

令和3年(2021年)4月1日から令和4年(2022年)3月31日まで

(単位:円)

科目	予算額a	決算額b	差異b-a
I 事業活動収支の部			
事業活動収入			
基本財産運用収入	0	366	366
特定資産運用収入	0	4,251	4,251
入寮費収入	1,050,000	1,500,000	450,000
寮費収入	25,050,000	26,872,028	1,822,028
寮費収入(室料)	15,140,000	16,114,383	974,383
寮費収入(食事代)	5,080,000	5,603,779	523,779
共益費等寮生徴収金	4,830,000	5,150,766	320,766
短期宿泊料収入	0	3,100	3,100
寄付金収入	3,000,000	4,556,297	1,422,797
寄付金収入(一般)	3,000,000	4,322,797	1,322,797
寄付金収入(特別)	0	100,000	100,000
クリスマス献金	0	133,500	133,500
雑収入	45,000	102,097	57,097
特定費用準備金取崩収入	500,000	274,822	-225,178
事業活動収入計	29,645,000	33,309,861	3,664,861
事業活動支出			
人件費	9,660,000	9,969,021	309,021
賄材料費	3,200,000	3,602,129	402,129
会議費・役員会雑費	130,000	32,215	-97,785
旅費交通費・車両費	320,000	129,480	-190,520
寮生指導・厚生費	130,000	1,042,125	912,125
寮生活動支援費	550,000	68,000	-482,000
通信運搬費	600,000	592,620	-7,380
消耗品費・事務用品費	550,000	883,079	333,079
修繕費・什器備品費	800,000	1,454,593	654,593
方舟刊行・印刷費	1,250,000	940,838	-309,162
講演会等諸雑費	215,000	473,703	258,703
水道光熱費	2,745,000	2,735,534	-9,466
広報費	1,200,000	1,014,391	-185,609
図書新聞費	80,000	101,473	21,473
支払報酬料	1,100,000	797,958	-302,042
災害保険料・防災費	750,000	663,414	-86,586
租税公課	350,000	360,600	10,600
支払手数料・その他	970,000	849,636	-120,364
事業活動支出計	24,600,000	25,710,809	1,110,809
事業活動収支差額	5,045,000	7,599,052	2,554,052
II 投資活動収支の部			
投資活動収入	300,000	1,415,759	1,115,759
投資活動支出	4,300,000	7,121,597	2,821,597
投資活動収支差額	-4,000,000	-5,705,838	-1,705,838
当期収支差額	1,045,000	1,893,214	848,214
前期繰越収支差額	7,086,317	7,086,317	0
次期繰越収支差額	8,131,317	8,979,531	848,214

めて、3300万円となった結果、当期経常増減額が173万円となりました。(誌面の都合上、正味財産増減計算書は、方舟次号に掲載予定)

- 3) 貸借対照表については、特定資産のうち、建物再建積立金が8115万円(前年度対比+370万円)、修繕等積立金が400万円(+8万円)、特定費用準備金が497万円(+23万円)となりました。
(別表2参照)
- 4) 落合税理士から、寮生の増加等により、上記3つの積立てが計画通りできるなど、数年前の状況に比べて、顕著な収支改善効果が見られるという趣旨のコメントが

ありました。

- 5) 以上のように、皆様方の多額のご寄付により、2021年度決算において当期収支の黒字を達成することができたことに対して、改めて厚く御礼申し上げます。

3. 特記事項

- 1) 登戸学寮の業務運営と担当
新年度の各委員会委員と業務担当を確認しました。
- 2) 評議員の異動
石川光評議員が一身上の都合により6月11日付けで辞任されました。

【別表2】 貸借対照表

令和4年(2022年)3月31日現在

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
流動資産			
現金預金	12,167,334	10,209,773	1,957,561
未収金	0	3,957	-3,957
棚卸資産	83,274	34,164	49,110
前払金	45,007	42,931	2,076
立替金	93,450	95,900	-2,450
流動資産合計	12,389,065	10,386,725	2,002,340
固定資産			
基本財産			
土地	592,500	592,500	0
建物	131,963,013	138,016,491	-6,053,478
定期預金	6,300,001	6,300,001	0
基本財産合計	138,855,514	144,908,992	-6,053,478
特定資産			
建物再建特定積立資産	81,148,012	77,448,012	3,700,000
修繕等特定資産積立資金	4,000,076	3,915,806	84,270
特定費用準備金	4,972,581	4,747,355	225,226
特定資産合計	90,120,669	86,111,173	4,009,496
その他固定資産			
その他固定資産合計	4,429,726	3,739,130	690,596
固定資産合計	233,405,909	234,759,295	-1,353,386
資産合計	245,794,974	245,146,020	648,954
II 負債の部			
流動負債			
前受金	2,055,320	1,282,500	772,820
未払金	521,884	1,198,080	-676,196
預り金	52,330	39,828	12,502
入寮時預り金	780,000	780,000	0
流動負債合計	3,409,534	3,300,408	109,126
固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	3,409,534	3,300,408	109,126
III 正味財産の部			
正味財産			
1. 指定正味財産	4,472,581	5,663,114	-1,190,533
2. 一般正味財産	237,912,859	236,182,498	1,730,361
正味財産合計	242,385,440	241,845,612	539,828
負債及び正味財産合計	245,794,974	245,146,020	648,954



金井守氏を偲ぶ

去る3月19日に金井守氏が天に召されました。金井氏は早稲田大学在学の学生時代1972年から5年間を登戸学寮で過ごされ、(元評議員、)2019年から理事をお務めいただいております。今回、特別に直子夫人にご寄稿いただきました。

千の風になった夫 金井 守

金井直子

コロナ禍による面会制限が厳重に行われている中、満足に会うこともできずに3月19日に夫は旅立ってしまいました。一緒に暮らした35年間を振り返ってみますと、同志であり師であったように思います。権利擁護を研究テーマとし、海外の調査研究や学会発表等切磋琢磨して行ったことや長崎・天草・五島列島などにキリシタンの歴史をめぐる旅にも行きました。一方、夫には多くの期待が寄せられており、様々な役職を担い、非常に多忙でありました。しかし3年前に大学を退官し、週2回の社会福祉法人の勤務以外は、落

ち着いた暮らしがやっとできるようになり、毎朝、内村鑑三の「一日一生」を読み、庭の手入れを愛犬と戯れながら行うことを日課としていました。私はクリスチャンではありませんが、晩年病気がちであった夫はイエス様とともにあったなかでその辛さに耐えることができたように思います。

今、夫は私の心のなかに生きています。また夫と接したすべての人々のところにも今も生きています。妻としては、夫が生涯をかけて取り組んできた福祉、そして教育を継続して行っていきたいと思います。

登戸学寮の寮長様、副島理事様はじめ、皆様には大変お世話になりましたことにお礼申し上げます。

お知らせ 11/26(土) 第二回「黒崎幸吉賞」授賞式・講演会ほか

第二回「黒崎幸吉賞」授賞式・講演会、ホームカミングデーが行われます。講演会では、今回も地の塩・世の光として福音の証をたててこられたお二人に講演いただきます。正式に決まりましたら学寮HPにてご案内申し上げます。奮ってご参加ください。

11月26日(土)

14:45-16:15 第二回黒崎幸吉賞授賞式・講演会

16:30-18:00 ホームカミングデー

寮外活動支援報告会(松井共生)

音楽会(塩見楽、井村咲月、大城あい他)

朗読劇(ラーゲルレーヴ原作「神の宮」)

※ 対面およびオンラインでのご参加の方は、電話(044-933-0819)またはメール(noborito@gakuryo.or.jp)にて、お知らせください。

※ オンラインでご参加の方は下記のURLからご参加いただけます。Zoomアカウントは不要です。

<https://us06web.zoom.us/j/9013893127>

ミーティングID: 901 389 3127

中庭の野菜畑で採れました!



10kgを超える収穫のあったキュウリとミニトマト。キュウリは漬物に、ミニトマトはトマトソースにして廃棄することなく消費しました。

新理事紹介 橋内 武さん

福嶋美佐子氏とともに、2021年6月に理事に就任した橋内です。登戸学寮には、1964年3月下旬から9月末までお世話になりました。私は東京在住の身でしたが、親元を離れて寮生になりました。

このご縁は前年の秋、大学の学生部に掲示されていた「入寮のご案内 登戸学寮」から始まります。学寮に伺うと、寮長の高橋三郎先生より「三谷隆正記念キリスト教講演会」への参加を勧められ、その講演を聴講しました。感銘を受けて入寮を希望したところ、翌年3月からの許可が下りました。

短期間とはいえ、当時の寮長と寮生諸氏からは貴重な智恵と知識を得ることができた半年間でした。先輩寮生の中には、石原昌武氏、大友浩氏、尾形松寿氏、高木謙次氏、武田武長氏らがいって、大いに鼓舞されました。高橋先生の紹介で『幸福論』の著者・三谷隆正を知り、非戦平和論者・政池仁先生の集会にも出席しました。

この度の理事就任にあたっては、当時の寮生・小島拓人理事長の推挙を得ました。ここに至り、

登戸学寮（無教会系）との間に連綿と続く絆を実感しています。私は高等部・大学（学部）・大学院修士課程の9年間を青山学院（メソジスト系）で学びました。初任地は岡山にあるノートルダム清心女子大学（カトリック系）で、19年間、主に英語学を担当。その後、大阪の桃山学院大学（英国聖公会系）に転じて、70歳まで応用言語学や社会言語学などを講じました。顧みるに、我が人生の長きに亘り、キリスト教という宗教的環境に恵まれていたことに気がきます。

なお、昨秋に創設された黒崎幸吉賞を選考・授賞するにあたり、沖縄在住の学寮OB・石原昌武氏を推薦したところ、第一回授賞者の一人に選出され、大変嬉しく思いました。最後に、寮生諸君が今後とも「地の塩、世の光」という創設者の願いを憶えて、日々研鑽を積まれることを祈念しています。



ブータン王国の首都ティンブーにて

私の好きな〇〇 寮の中で好きなモノ・コトや空間などについて、寮生に聞いてみました。

好きな生活

ある日の夜、食堂で寮生と会話をしていて、晴耕雨読の生活がしてみたい、ほうれん草なら栽培が簡単らしいから自分たちでも育てられそうという話になりました。このとき私の中ではすでに、寮で野



菜を作りたいという気持ちになっており、その勢いそのまま、寮生たちと一緒に中庭を開墾して色々な野菜の種を蒔きました。軽い気持ちから始めたものの、畑仕事は地道な作業が多く、野菜への気遣いと愛情がなければできないと知りました。

中村真子 青山学院大学文学部3年

好きな空間(プレイルーム)

皆さんは何か没頭しているものはありますか？私にはゲームが時間を忘れさせる存在です。数あるゲームの中で特に「大乱闘スマッシュブラザーズ(通称:スマブラ)」が好きです。私は人と話すことが不得意で入寮当時は寮生と打ち解けられるか不安でしたがスマブラを通して直ぐに打ち解けることが出来ました。ゲームだけではなく親睦を深める機会もありますが、こうして皆でプ

レイルームに集まってゲームを通して親睦を深めることが出来るのも寮の強みだと私は思います。



三浦千尋 専修大学文学部3年

卒寮生インタビュー その3 渡邊彩加

在寮期間：2010.4～2012.3 オーストラリア在住 保育士

一現在の仕事とやりがいは？

今は、オーストラリアで保育士(early childhood educator)として働いています。今年から2～3歳児、約20人の担任をしています。昨年も担当していたクラスなので、子どもたちの成長を身近で感じられることが何より楽しいです。また、日本に比べてワークライフバランスがしっかりしているので、プライベートの時間もしっかり確保でき働きやすいです。

一仕事を選んだ理由は？

もともと、高校3年生の進路選択の時に、看護師か保育士かで悩んでいました。その時は看護師を選択し、看護学校卒業後、看護師として3年間働きました。その後、幼いころより海外で生活してみたいという夢を叶えるため、看護師を辞めてオーストラリアに語学留学しました。キャリアチェンジをするなら、今だと思い、そのままオーストラリアで保育士の資格を取得しました。

一どのような寮生活でしたか？

とにかく楽しかったです。女子寮ができて初年度の入寮で、女子寮生は5人だけでした。入寮後、男女比率に差があって驚いたのを覚えています。

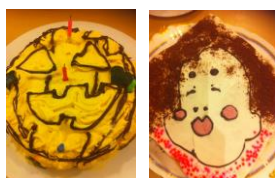


中庭での流しそうめん
在寮時の渡邊さん(中央)

漫才大会、流しそうめん、成人式、父の日・母の日、クリスマス会など、男子寮生・女子寮生、みんなで集まる機会が多かったと思います。

一女子寮での思い出は？

女子寮1年目は、誕生日を迎える女子寮生のためにケーキを作ってお祝いしていました。どんなケーキにしたら喜ぶか、みんなで相談し一から手作りしました。誕生日ケーキだ



けでなく、日常的に料理する人も多かったので、調味料を購入する係などがありました。初年度だったので、寮則とは別に女子寮での生活のルールをすべて自分たちで話し合っていました。

いつからだったか、女子寮生5人と知子さん(寮長夫人)と千尋さん(女子寮メンター)を交えた交換日記のようなものが始まり、その日の出来事や今考えている事などをそれぞれ書いていました。会話だけでは分からない人の内面に触れることができたと思います。

2年目は看護師の国家試験の勉強もあり忙しく毎日くたくたでしたが、今となってはすべてが貴重な経験でした。

一寮生活を経験してよかったですか？

よかったです！一度は経験すべきだと思います(笑)。家族以外の人との生活は、自分から選ばない限り経験できないことなので。家族以外の誰かと毎日食事をしたり話しをしたり、日々の生活を通して、こういう人もいるのだと、自分とは異なる価値観や考えに出会えました。私の強い人、揺るがない信仰を持った人、自分とは異なる勉強をしている人、当たり前ですが登戸学寮にはいろいろな人がいました。

今まで宗教に触れたことが全くなかったので、朝拝や日曜聖書講義などを通して、キリスト教について学べたこともよかったですと思っています。

一今後やりたいことは？

日本での看護師の仕事も楽しく充実していたので、オーストラリアでもいつかまた看護師として働いてみたいとです。そのためには、学士号が必要で、すでに日本の大学の通信教育で学士課程の勉強を終えましたが、コロナの影響もあり最終試験を受けられず今に至っています。

やりたいことはたくさんあります。人生一度きりなので、やりたいことには思う存分チャレンジしていきたいです！

聞き手：織田千尋

登戸学寮 寮友会

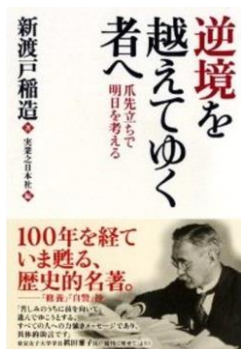
本会は寮生活を経験した OBOG で構成され、創立者黒崎幸吉先生の建寮の趣旨を尊重し、会員相互の親睦と在寮生との交流、支援等を行うとともに、登戸学寮が末永く存続し続けるために必要な諸事業を支援することを目的として活動しています。

■ 寮友会の最近の活動

「在寮生との交流、支援」（「寮友会会則」第二条の会の目的）の趣旨に照らし、寮友会として在寮生への支援を具体化することを役員会で検討し、以下の取り組みをスタートしました。

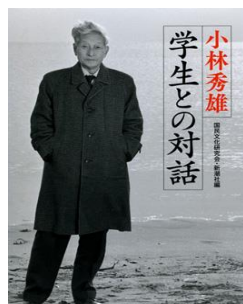
卒寮生への支援

卒寮を前にした寮生に、寮友会から「卒寮記念品」を贈呈することにしました。卒寮後の人生に裨益する品として、今回（2022年1月）は名著とされる書籍（新渡戸稲造『逆境を越えてゆく者へ』）を各卒寮生にプレゼントしました。



新入寮生への支援

大学生活に裨益する品として、2022年度の新入寮生に書籍（小林秀雄『学生との対話』）をプレゼントしました。



また、新入寮生が寮生活に馴染んで来た時期に、寮友会から「入寮お祝い」をさし上げることとしました。2022年度は6月に、特別感のある食材



ケーキの上ののった白い板チョコに「新入寮生祝」と書いてあります。

（ケーキ）を在寮生・職員の皆様に提供し、喜んでいただきました。

コロナ禍により大人数で会うことが困難になってきていますが、現役寮生との接点をしっかりと作っていきたくと考えています。

近い将来、国内そして世界各地にいらっしゃる卒寮生と実際にお会いできる OBOG 会を企画して参りたいと思います。寮友会としては、今後も寮・寮生への支援活動に工夫をこらしていきたくと考えています。

寮友会会長 石川 光
ishikawa.hikaru@gmail.com

■ 最近召天された卒寮生

† 奈良良一様 2022年5月（1958年入寮）

コラム 少年犀星と俳句

俳人（学寮OB） 岸本尚毅

「ふるさととは遠きにおいて思うもの」とうたった国民的詩人の室生犀星は旧金沢藩士の実父が密かに生ませた子でした。生後すぐに養子に出され、十三歳で金沢地裁の「給仕」として奉職。俳句好きの上司の手ほどきで俳句に熱中。十代の犀星は新聞俳壇の常連入選者として有名になりました。「固くなる目白の糞や冬近し」「秋山や静かに聴けば海の声」などは少年と思えぬほど巧みな作です。俳句での小さな成功体験が、不遇な少年だった犀星を、文学の道へと押し出したのです。

（参考文献・岸本尚毅編『室生犀星俳句集』岩波文庫）

ご支援へのお礼とご報告

登戸学寮をお心に覚えていただき、いつもご支援を賜り心から感謝申し上げます。ここにご芳名を記してお礼申し上げます。

寄附者ご芳名

2022年4月1日から8月31日まで（敬称略）

注1. 個人 105名、寮生有志 2件、総件数 117件

（個人） 105名

青木 幹夫、荒木 仁子、有賀 進、石川 嗣郎、石田 和子、石原 能行、井出 紀子、伊藤 康子、井村 祥隆、岩沙 克次、岩島 寛、内野 隆三、越智 好、大内 信一、大崎 桂介、大城 ヨシ子、太田 源左衛門、大友 浩、奥田 信夫、柿沼 蓉子、加藤 健一、河東田 邦子、金沢 信治、川中子 義勝、岸 豊作、北爪 文義、木村 秀夫、櫛田 俊明、栗栖 泰郎、黒崎 比佐子、黒崎 光子、黒崎 稔、小泉 智博、幸野 道雄、小河原 貞一、小島 拓人、小関 道子、小館 美彦、児玉 伸彦、小西 孝蔵、笹井 岩男、佐野 好則、渋谷 美登里、清水 亨、荘保 達雄、白井 淳子、白方 勇一、白崎 良二、菅沼 勝子、鈴木 守、鈴木 喜晴、須山 澄子、関根 義夫、副島 浩、副島 正人、高田 暁治郎、高田 秀樹、高橋 靖子、高橋 由典、高柳 博一、瀧山 晃弘、武井 陽一、竹内 朝日郎、

土屋 泰次、綱野 悦子、富井 直子、富永 尚、友寄 隆房、鳥居 祝子、直木 葉造、永井 和子、中村 真理子、名取 克也、西尾 穂臣、西野 勝、西原 偕子、野々瀬 浩司、羽賀 道信、橋内 武、長谷川 浩司、坂内 宗男、平田 和吉、福岡 和子、藤田 信夫、古角 隆、星住 リベカ、星野 光利、細貝 昭吾、本田 圭、松井 弘典、丸山 信子、三田 洋子、三宅 順子、森 義之、安田 裕、矢野 那奈子、山口 和彦、山口 協一、山田 信昭、山本 鐵子、山本 直哉、横内 信子、吉村 薫、鷺崎 安久、匿名 1名

（寮生有志） 2件

バスケット愛好寮生有志、TV 愛好寮生有志

以上

寮生の出身国・都道府県

太字は新入寮生

2022.9.1 現在

男子寮生（19名）	女子寮生（15名）
山形県（2名）、福島県、栃木県、茨城県、千葉県、 東京都 （1名+新入寮生1名）、神奈川県、 愛知県 、大阪府、 岡山県 （2名）、長崎県、大分県、 韓国 （1名+新入寮生1名）、アメリカ合衆国、カナダ	岩手県 、宮城県、福島県、埼玉県（2名）、東京都、神奈川県、静岡県（2名）、新潟県、 長野県 （1名+新入寮生1名）、 愛知県 、大阪府、沖縄県

【編集後記】

今号は多くの寮生に執筆いただき、各人の活躍や寮生活の様子を知ることができました。寮生の畑ほどの収穫量はありませんでしたが、この夏、我が家の庭でも種から育てた野菜を収穫することができました。あれほど小さかった種から豊かな実りを得られたことに、生命の不思議や神秘を感じずにはいられませんでした。秋が深まりゆく季節、皆さまお体にお気を付けてお過ごしください。（C.O）

公益財団法人 登戸学寮

〒214-0032 神奈川県川崎市多摩区柘形 6-6-1

☎ 044-933-0819 ☒ noborito@gakuryo.or.jp

発行人 小島拓人

編集委員 千葉 恵、千葉美佐子、鷺見八重子、岸本尚毅、大谷 恵、早川 嗣、織田千尋

発行日 2022年10月20日